

# 産廃から資源 光る技



「もったいない！」をカタチに。リサイクル機械製造販売のエムダイヤ(富山県滑川市)はそんな企業コンセプトを掲げ、独自の製品で存在感を放っている。タイヤに家電、光ファイバーケーブルに電子基板。これらの産業廃棄物を、資源ごとに効率よく分類する技術で、循環型社会の実現に一役買ってきた。

同社の原点は、森弘吉社長(西)が「発明家」と評する父誠一さん(中)が二十数年前に考案した機械だった。油圧機械の修理業を営み、スクラップ業者にも出入りしていた誠一さんは、取引先から「廃タイヤを処理する機械ができないか」と頼まれた。当時は廃タイヤを野積みするケースが多く、長期間放置すると自然発火の危険性もあった。

誠一さんは機械の知識を生かし、補強のためにタイヤに埋め込まれた鉄芯から、ゴム部分をそぎ取って仕分ける技術を開発。商品化を目指し

## 最重点目標

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



## エムダイヤ (富山県滑川市)

### リサイクル機械の製造販売

たが、開発投資がかさんで事業継続を断念した。

森社長は「この機械を世に出し、父の足跡を残したい」と、石川県内の大手工作機械メーカーを辞め、二〇〇五年に新会社を設立。三年後、タイヤだけでなく多様な廃資源をすばやく破碎、分離できる機械「エコセパレ」を発売した。

自動車や家電メーカーのグループ

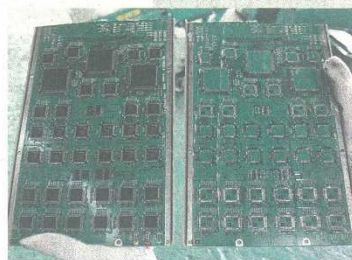


電子基板から半導体チップなどの部品を剥がし取る「エココレクター」。独自のIoT技術で稼働状況の遠隔監視ができる。富山県滑川市のエムダイヤで

エココレクターで部品を剥がす前の電子基板(左)と剥がした後

会社に販路を開拓し、今では売り上げの五割超を占める主力製品に成長した。

昨年には、テレビやパソコンの電子基板の両面から半導体チップやコンデンサーなどの部品を傷つけずに剥がし取る「エココレクター」を発売。基板に含まれる金や銅、レアメタル(希少金属)など、「都市鉱山」と呼ばれる貴重な資源の回収効率を高められる。



SDGs 「誰一人取り残さない」という考え方のもと、人種や性別、地域などを超えて地球上のみんながそろって幸せになることを目指す国連の目標。「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「人や国の不平等をなくそう」など17のテーマ別の目標がある。SDGsは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略。

## 会社メモ

森社長の父・誠一さんが1979年6月に創業した油圧機械の修理会社が前身。2005年11月設立。リサイクル機械の製造販売やリサイクル事業のほか、各種産業・工作機械の点検修理、改造事業を手掛ける。従業員は10人。社名はマシンやメカニック、メンテナンス、代表者の名字「森」などの頭文字と、ダイヤモンドにちなむ。本社は富山県滑川市中村。

SDGsで最も重視する目標は⑨「産業と技術革新の基盤をつくる」だ。エムダイヤの機械の部品は、ほぼすべて自社製造にこだわっている。森社長は「鋼材を仕入れて自前で加工、溶接している。そうしないと技術力の向上につながらない」と力を込める。

ただリサイクル機械は数千万円と高額で、受注状況に波がある。収益安定化のため目下、機械を定額制で貸し出すサブスクリプションサービスの実証実験に取り組んでいる。独自開発のシステムを使い、タブレット端末などで稼働状況を遠隔で監視。使用の度合いに応じて料金を支払ってもらう。

「ダイヤモンドのように小さくてもキラッと光る総合環境企業を目指す」と森社長。「当社のベースにある考え方はSDGsにつながっている。今後もPRし、より多くの人にエムダイヤを知ってもらえたら」と期待する。(高本容平)